



アコースティックバンド「テノヒラ」のボーカル 愛南町出身の kiku さんがつづるふるさとエッセイ

—あいなん音故地新— 100点を目指すの、やめました。

私は自他共に認める『完璧主義』だ。そのうえプライドが高いので、自分に課すハードルが高く(これは前号でも話しましたね)それを超えられないと自信を喪失してしまうという厄介な性格。ここ数ヶ月思うように進まないことだらけで、こんなに停滞しているのは人生で初めてかもしれません。そんな状況に、なんて自分は甲斐性も信用もなく、落ちこぼれた人間なんや、と酷い言葉ばかりを自分にかけ続けとった。そのときに知人が私に『100点を取りにいかんでええのよ』と、言うてくれた。張り詰めた毎日に、ふわっと風が流れ込んだような感覚やった。

たしかに、ね。はじめから100点を目指すと身動きがとれんし、はじめの一歩が遅くなる。90点でも上出来なのに10点も足りんかった、って『出来ないことばかりに目がいって』90点取れた自分を褒めてあげることができんかったら、そりゃ自信もつかんよね。やからね、もう『100点を目指す』の、やめました。90点でも80点でも、60点でも自分を褒めますよ、私は!!なんなら、30点やったとしても『よく挑戦したね!』と、褒めますよ、私は!!こんなのが聞いたことないけど、決めましたよ、私は。2026年の抱負、『100点を目指すのをやめる』!!

(テノヒラkiku)



御荘文化センター図書室より

“2月の新着図書ピックアップ”の紹介

【ティーンズ】

『美しくない青春』

小手鞠 るい(著)／さ・え・ら書房(発行)

恵まれた少女時代を過ごしていたミモザ。しかし戦争により、空襲におびえる日々が始まること。やがて父親は家族に暴力を振るうようになり、ミモザの「美しいもの」は、次々に奪われる。ミモザのモデルは著者の母。戦争は、彼女の青春時代を塗り潰し、後に視力をも奪う。本作は著者の母と、戦時以下の女性の青春を描いた詩人茨木のり子に捧げられている。

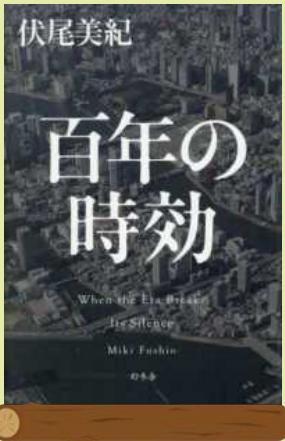


【小説】

『百年の時効』

伏尾 美紀(著)／幻冬舎(発行)

昭和49年、春の嵐の夜、東京の佃島で起きた一家惨殺事件。複数人の犯行と思われたが、捕まったのは一人だけ。共犯者は見つかぬまま時は令和を迎えていた。未解決のまま50年。アパートで見つかった一体の死体によって、事件の針は再び動き出す。昭和、平成、令和と捜査のバトンを繋いだ刑事たちの執念の捜査。戦前戦中史まで絡む壮大な警察小説。



御荘文化センター図書室では、毎月「御荘文化センター図書室だより」を発行しています。

図書室だよりを通じてピックアップ図書以外の新着図書情報やそのほか新しい情報を皆さんに発信しています。町のホームページにも掲載していますので、ぜひご覧ください。



愛南町
ホーム
ページ